

令和4年度東部地区道徳教育研究協議会
春日部市立武里南小学校
【高学年部会】

主 題 名 誰にでも偏見の心が
内容項目 C 公正、公平、社会正義
教 材 名 「未来を見つめるまなざし」
(彩の国の道徳「未来に生きる」)



ねらいに迫る発問の工夫



自分と向き合う書く活動



今後の生き方へつなげる終末の工夫

1 各グループからの発表（ワークショップ型分科会）

- 導入が工夫されていてよかった。本時の道徳的価値について、みんなで話し合ってみたいという意欲を高めることができていた。
- 児童に経験したことを想起させると、自分との関わりで考えることができる。今回の授業で再確認することができた。
- 教師の発問は重要である。特に話し合わせたい部分については、時間をかけられるとよい。日々の授業づくりでは、気になる児童の発言を取り上げ、児童同士の発言をつないで主題に迫っていききたいものである。
- 主人公の視点だけでなく、教材に登場する主人公の父や友達の思いについても考えさせることで、道徳的価値に関する視点が広がり、話合いが深まっていくことがわかった。
- 終末部分を工夫していて参考になった。今回の学習で、人と共に生きていく上で大切なことを学ぶことができたと思う。



2 指導講評

- 学級経営のよさが伝わってくる授業であった。教師が児童の話をするはずきながらじっくりと聞くことはとても大切である。
- 導入では、自分を見つめるための動機付けが必要である。「この時間に何を考えさせたいのか」について、学習指導要領に基づき、教師が価値理解をしっかりとすることが大切である。課題を提示する場合は、児童の思いも大切にしていきたい。
- 話合い活動は重要である。自分を見つめたり、他者の考えを聞いたりすることができる時間である。教師と児童の1対1のやり取りだけにならないように、教師が話合いをコーディネートしていただくことが大切である。「〇〇ってどういうこと？」「〇〇さんは、このように言っているけど、みんなはどう思う？」等の問い返しをし、話合いを深められるようにしたい。
- 評価については、計画的に見取っていくとよい。授業後に印象に残っている発言や、つぶやき等を週案などに書き溜めていくのもよい。毎時間を大切に、楽しんで授業をしてもらいたい。

